



わたらせ養護園の外観。特徴的な“とんがり屋根”は旧園舎の意匠を引き継いだものという

園舎がキッズデザイン賞

機能美と温かみを評価

わたらせ 養護園

桐生市新里町奥沢の福祉型障害児入所施設・わたらせ養護園の園舎（本館・新館）が



受賞した山岡さん、野口理事長、太田施設長（左から、わたらせ養護園で）

このほど、子どもや子育てに関わる課題解決に取り組み作品を顕彰する「キッズデザイン賞（建築・空間カテゴリー）」を受賞した。

8日には園舎を設計した1級建築士の山岡嘉彌さん（東京都）が来て、同園を運営する社会福祉法人桐の実会の野口秀樹理事長らに報告した。

1966年開園の同園は学齢前から中学生までの知的障害児に対し、必要な発達支援や治療教育を通して生活習慣や社会性など習得するための入所型施設。

現在は39人が入所している。受賞した園舎は87年に創立20周年を記念して本館が落成し、2012年には新館が増設された。

同賞は居住の快適性やデザイン性だけでなく、子どもや子育てのための機能性や工夫、社会貢献実績などを審査基準に選考される。同園舎は居住する子どもたちの安全のため、廊下を生活空間として利用し死角が発生しにくい構造になっている。

同園の太田徹施設長は「園舎内に段差が無く子どももけがしにくい。木造の柔らかく明るい雰囲気です。子どもたちが落ち着いてくれる」と話す。他にも生

活泉などが抜けるような高い天井部と床に換気用の窓を設けるなど、新里の豊かな自然を利用した工夫の数々が評価を集めた。落成・増設後10年以上にわたり子どもたちの生育に携わっている同園での実績も評価された。

8日は山岡さんが同園を訪れて野口理事長と太田施設長らに報告。山岡さんは施設の方々が子どもたちを温かく面倒を見つけてくれたおかげで応募でき、評価をいただいたと感謝を述べた。野口理事長は「豊かな自然と素晴らしい園舎で多くの子どもたちが豊かに成長してくれた。設計いただいた山岡さんが評価されて私たちがうれしくて祝福した。